

流域対策の取組状況④



(主)香住村岡線
香美町香住区七日市



(国)312号
豊岡市下宮

(主)養父穴栗線
養父市十二所



県管理道路における歩道の
透水性舗装

兵庫県：透水性舗装



市役所本庁舎
緑化ブロック、保水性
ブロックの施工



朝来市：公共施設の雨水貯留浸透機能

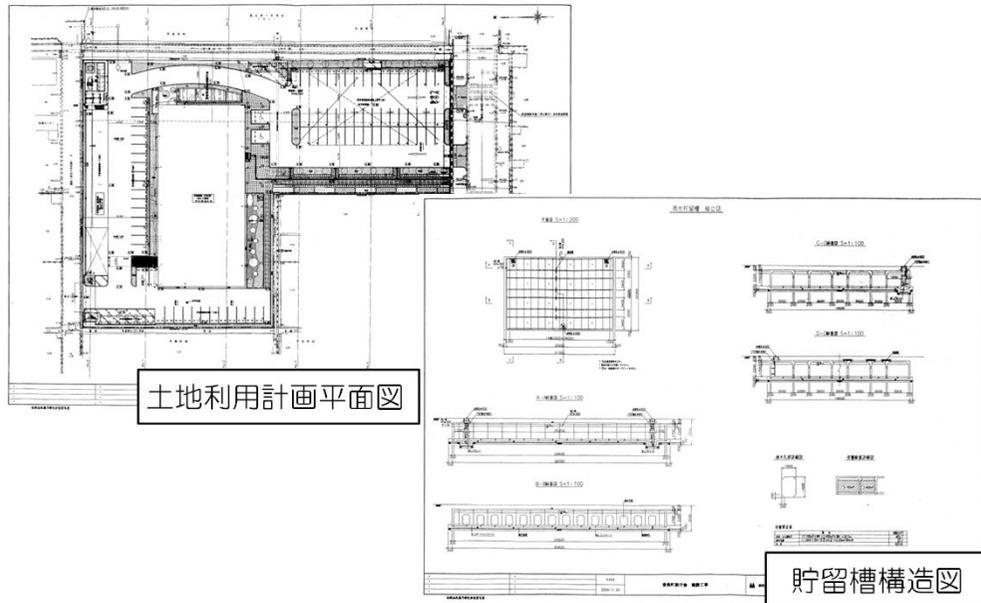


香住区森地内（モデル地区）
セキ板配布 10枚、取組農家
数 5戸、取組面積 約90a

香美町：たんぼダム



豊岡市：市立学校 校庭芝生化



貯水能力：駐車場貯留と地下貯留槽1,200m³



整備前



整備後

里山防災林整備（養父市建屋地区）
倒木や崩壊の危険性の高い集落裏山の里山林を対象に、森林整備等の実施により山地災害防止機能等を高める

減災対策の取組状況①

- 洪水浸水想定区域図・ハザードマップの作成、まるごとまちごとハザードマップの設置などは概ね実施済みであり、普及・啓発や防災情報提供(災害を伝える取組み、簡易雨量計)なども継続的に進められている。
- 雨量や水位情報、監視カメラの情報も発信・配信されている。
- 出前講座・研修を通じて、継続的に人材育成が行われている。
- 総合防災訓練、一斉避難訓練など訓練も定期的に行われている。
- フェニックス共済の加入率はほぼ横ばいである。

減災対策の進捗状況

推進計画における取組み		進捗状況
浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握	兵庫県CGハザードマップによる情報提供	継続的に実施
	避難行動指針の作成	普及啓発を継続実施
	ハザードマップの作成・配布	継続的に実施（随時更新）
	まるごとまちごとハザードマップ(台風23号時の浸水実績)を設置	H25完了
	災害を伝える取組（台風23号メモリアル事業）	毎年1回実施
	防災ワークショップ・地域防災学習会の実施	台風23号水害の被災経験を風化させない取組として、自治会や地域を対象に学習会等を実施
	簡易雨量計の配布	普及啓発継続実施（市ホームページ等で製作方法を掲載）
	避難判断水位・氾濫危険水位等の見直し	14河川実施済み

減災対策の取組状況②

推進計画における取組み		進捗状況
浸水による被害の発生に係る情報の伝達	雨量・水位情報の発信	継続的に実施
	河川監視カメラ情報の発信	継続的に実施
	県民に対する防災情報の発信	冠水情報表示板の設置、防災行政告知システム整備、防災行政無線・ケーブルテレビで継続的に実施
	市町に対する情報提供	継続的に実施
浸水による被害の軽減に関する学習	出前講座等の実施	継続的に実施
	児童・生徒等を対象とした防災学習会等の実施	継続的に実施
	講演会の実施	継続的に実施
	但馬地域ひょうご防災リーダー講座	3年に1回実施
	防災マップの作成支援	全自治体終了している機関は啓発支援を継続実施、他機関は継続実施
浸水による被害の軽減のための体制の整備	避難施設等への案内板等の整備	設置完了
	津波避難ビルの震度感知式鍵ボックスの設置	設置完了
	避難行動要支援者の避難支援等関係者に対する公費によるボランティア保険加入促進	継続的に実施
	防災組織の結成推進・活性化	結成
訓練の実施	自主防災組織への啓発	継続的に実施
	市民総参加訓練の実施	継続的に実施（年1回）
	台風23号メモリアル水防訓練の実施	年1回実施
	一斉避難訓練の実施	年1回実施
	総合防災訓練の実施	年1回実施
	自主防災組織における訓練の実施	継続的に実施（年数回）
建物等の耐水化	建物等の耐水化	実施
浸水による被害からの早期生活再建	共済制度の加入促進	加入状況に大きな変化はなし（フェニックス共済）
	応援体制の確立	民間事業者等と災害時応援協定締結

減災対策の取組状況③



既設の台風23号浸水標柱41本及び市内の主な公共施設の避難所表示板に「地点標高」表示板を新たに設置



住民自らの活動報告の場と位置づけ、地域コミュニティ組織、小中学校、防災士会、ボランティアグループなどの取組を報告していただいている。

平成16年台風23号メモリアル事業 防災学習会

～過去の水害を振り返り、教訓を次世代につなげる～

日時 2023.11.11 日 16:00～18:00 (開場 15:30)

会場 じばさん TAJIMA 多目的ホール (但馬地域地産産業振興センター)
豊岡市大磯町1番79号 TEL 0796-24-5551

防災取り組み事例発表

- ① おもいやり隊 豊岡総合高校、和田山高校
- ② 豊岡市立津中中学校
- ③ 八条コミュニティ (地域コミュニティ組織)

防災の有識者よりコメントをいただきます。
東京大学大学院情報学環 特任教授 片岡 敬孝 氏

当日はYouTubeライブ配信を行います

<https://toyooka.bousaiseminar.jp>

豊岡市：まるごとまちごとハザードマップ

台風23号メモリアル写真展

▲北の海に込んだり (豊岡地区) ▲津波が来た (出羽地区)

◆期間 2023年10月13日(金)～10月22日(日) 入場無料
※休館日 10月17日(火)

◆時間 午前10時～午後6時 ※金・土曜日は午後7時まで

◆内容
・2004年台風23号による被災状況や救出救助活動など、当時の様子をうかがい知る写真
・防災グッズの紹介

「ミニ展示コーナー」を設置
豊岡市立図書館カブタン付近に、災害関連の図書を展示します(貸出できます)

2004年10月20日に本市を襲った台風23号は、死者7人、全壊333棟、大損壊半壊1,082棟、半壊2,651棟など、本市に甚大な被害をもたらしました。写真展では、被災状況や救出救助活動など、当時の様子をうかがい知る貴重な写真を展示します。ご家族、お知り合いをお誘いあわせのうえ、ぜひ、お越しください。

▲土砂が浸食をみる (田原地区)

<問合せ> ○豊岡市役所危機管理課 TEL23-1111 ○豊岡市立図書館 TEL23-6151



平成16年台風23号の教訓を伝えて、災害に備えるメモリアル写真展を実施。

豊岡市：台風23号メモリアル写真展の実施

豊岡市：台風23号メモリアル防災学習会の実施

地域防災活動の手引き 水害・土砂災害編



2022年12月
コミュニティみなと未来

地域防災活動の手引きの作成
地域での防災学習を支援するため、地域の指導役の方を対象とした住民学習素材を作成

豊岡市：災害を伝える取組

水害・土砂災害による犠牲者を出さないために 地域社会が一体となって、自然災害に対応できるまちづくりを目指しましょう

- ◆災害時には、「自分や家族の命は自分で守る」、いわゆる「自助」が原則です。
- ◆地域で助け合い、自助のサポートが「共助」です。
- ◆災害時を想像して、普段から備え、その備えの取り組みを継続することが大切です。

取り組みを
継続する

普段から 災害時を考えて 備えを実践



自助力の
向上を図る

避難行動要援護者の 避難を検討する



もしも 災害が起こってしまったら...



「簡易型雨量計」の作り方

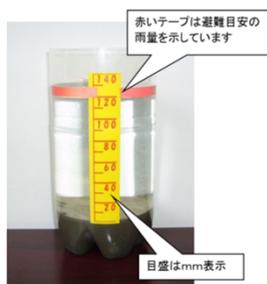


ページ番号 1000618 更新日 平成30年5月23日

印刷 大きな文字で印刷

大雨・台風時は自主避難の目安に！

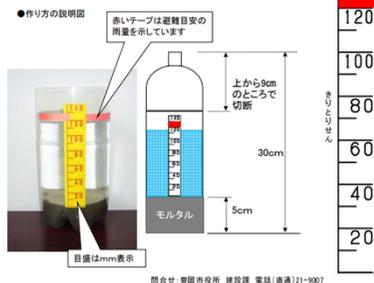
市では、土砂災害危険度予測システムで抽出した、特に危険な箇所（地区）に対し、自主避難の目安とするための「簡易型雨量計」を配布しました。この雨量計を配布した地区以外にも要望があったため「簡易型雨量計」の作り方を提示しますので、参考してください。



簡易型雨量計の作り方

市では、土砂災害危険度予測システムで抽出した、特に危険な箇所（地区）に対し、自主避難の目安とするための「簡易型雨量計」を配布しました。この雨量計を配布した地区以外にも要望があったため、「簡易型雨量計」の作り方を提示しますので、参考してください。

- (1)目的
雨量が120mmに達したら、自主避難の目安とする
 - (2)設置場所
家からよけて正確に測定できるように次のことに注意する
①建物の屋根や雨水の取などの下を避ける
②雨が降らなったり、風の影響がないところを選ぶ
 - (3)使用方法
①雨が降りそらになったら、雨量計を空にする（溜まっている水を捨てる）
②雨水がたまり、雨量計の赤い印まで来たら、自主避難を考える
- 使用材料および作り方
①製瓶材料（2リットル、三ツネサイダーなどの1500ccのペットボトルを用意する）
②全長が30cmあるので、上から9cm程度で切断する
③ペットボトルの下から5cm程度まで、モルタル（コンクリート）を入れる
④目盛を貼って完成（※目盛はmm表示、マシクなど目盛を書いてもいい）
目盛の上にはゼロハンテープなどで保護すると長持ちする



H26に雨量計の配布を実施
H27以降は市ホームページ等で
製作方法を公開



水深標示板（朝来市）

道路アンダーパス部に水深標示板を整備（令和3年度市内3箇所）

豊岡市：簡易雨量計の配布・製作方法公開



防災行政無線デジタル化工事により、屋外拡声子局を町内に8基整備を実施。防災行政のデジタル放送の本格稼働を行う。

香美町：屋外拡声子局の設置

朝来市：県民に対する防災情報の発信



小学校や地域団体に防災に関する出前講座を実施

新温泉町：出前講座の実施

減災対策の取組状況⑤



町、自主防災組織、消防団、美方広域消防本部、美方警察署、香住アマチュア無線クラブが連携し、町民も参加した訓練を実施

香美町、自主防災組織：町総合防災訓練の実施



毎年10月に町総合防災訓練を実施。防災訓練では住民に対する避難訓練や関係団体と連携し講演会や展示会、救出訓練等を実施

新温泉町：町総合防災訓練の実施



小佐浄水場



奥米地浄化センター

気象観測システムPOTEKAを設置

養父市：雨量計の設置



町と民間事業者等との間での災害時応援協定等の締結

香美町：応援体制の確立

現状と課題と改定の方向性について

総合治水推進計画の改定においては、国の「流域治水」の取組と連携、補完する視点を持ちながら浸水被害等の軽減につながる取組を盛り込むものとする。

河川下水道対策

- 河川下水道対策は、国・県の河川整備計画等や各市町の事業計画に基づいて着実に進めている。
- 河川管理施設等のメンテナンスに取組んできたが、河川管理施設等の老朽化が進行しており、計画的に修繕・更新を進める必要がある。

⇒ 引き続き円山川ほか各河川の河川・下水道の整備を計画的に進めるとともに、堆積土砂の撤去や河川管理施設等の老朽化対策を進める。

流域対策

- 施設管理者との協議が整った箇所や施設の新規整備・廃止を行う箇所で雨水貯留浸透施設の整備を進め、概ね計画以上の整備を達成した。
（既存ダムの有効活用）治水協定の締結・（ため池）洪水吐や取水施設の改良による事前放流設備の整備を5箇所で実施
（学 校） 雨水貯留施設の整備を県立学校1校（900m³）で実施
（田んぼダム）令和5年度までに、488haの水田に堰板の配布・（各戸貯留）126件の雨水タンク設置を助成
- 斜面崩壊防止等の防災面での森林の機能強化として災害に強い森づくりの整備（災害緩衝林の造成等）を進め、計画以上の整備を達成した。
- 既存ダム、ため池、田んぼダムや森林整備での取組が進められている一方、学校の貯留や各戸貯留の取組実績が少なく、今後さらなる事業の推進を図る必要がある。

⇒ 流域対策を更に進めるため、ダムの事前放流を計画へ反映するほか、ため池や透水性舗装などの流域対策を進める。

減災対策

- 洪水浸水想定区域図・ハザードマップの作成、まるごとまちごとハザードマップの設置などは概ね実施済みであり、普及・啓発や防災情報提供(災害を伝える取り組み、簡易雨量計)なども継続的に進められている。
- 雨量や水位情報、監視カメラの情報も発信・配信されている。
- 出前講座・研修を通じて、継続的に人材育成が行われている。
- 総合防災訓練、一斉避難訓練など訓練も定期的に行われている。
- フェニックス共済の加入率はほぼ横ばいである。

⇒ 引き続き減災対策に関する取組を進めるとともに、新規の取組(ワンコイン浸水センサなど)を計画へ反映する。内水解析の実施を進め、防災マップの支援や避難行動支援者への個別避難計画作成などの避難支援の取り組みを引き続き推進する。